

第 103 回 杜の都の環境をつくる審議会 議事概要

日 時：令和 8 年 5 月 25 日（月）16 時 00 分～17 時 30 分

場 所：仙台市役所 第一委員会室

出席委員：池邊委員（WEB）、遠藤委員、岡崎委員、奥口委員、佐々木委員、佐藤委員、馬場委員、平塚副会長、福岡委員（WEB）、舟引会長、古川委員、牧委員（WEB）、御手洗委員、渡部委員（WEB）（計 14 名）

欠席委員：庄子委員（計 1 名）

事務局：建設局長、小松次長、水谷次長、百年の杜推進部長、百年の杜推進課長、緑化推進係長、花とみどり協働担当係長、緑地保全係長、広瀬川創生係長、公園管理課長、施設管理係長、企画調整係長、利活用推進係長、公園整備課長、建設係長、青葉山公園整備室長（計 16 名）

司 会：百年の杜推進課長

1. 開会

○事務局（中川課長：百年の杜推進課）

—開会—

- ・局長挨拶、事務局紹介（4 月異動者）、資料確認

○舟引会長

—議事録署名人の指名—

- ・議事録署名人：舟引会長、奥口委員

2. 議事

（1）審議事項

- ① 仙台市みどりの基本計画 2021-2030 中間改定（案）について

○事務局（岩月係長：百年の杜推進課緑化推進係）

—資料 1-1、1-2、1-3、1-4 について説明—

○遠藤委員

・緑の価値を高めるためにダイバーシティ、脱炭素、こども観光、ネイチャーポジティブ、カーボンニュートラルの取組を強化するにあたり、他部局との連携がこれまで以上に不可欠となるが、複数の部局が関わる施策について、庁内でどのように連携して進めるのか。

○事務局（中川課長）

・各部局の関連事業を互いの計画に反映して進捗管理と連携を図りつつ、新規事業を計画に位置付ける際は、その都度関係部局と協議して進める。

○舟引会長

・当初計画の策定にあたり、他部局と連携しなければ施策は進まないもので、建築物等緑化ガイドライン等の新規施策を含め、部局ごとに連携内容を整理して計画に盛り込んだ。その過程では、事務局が他部局と綿密な調整・折衝を重ねて取りまとめているが、今後もおろそかにならないよう進めてもらいたい。

○御手洗委員

- ・基本方針4の重点的な取組「みどりを活用したコミュニティ、地域づくりの推進」で示された「多様な人々の意見が生かされる交流の促進」という追記について、その具体的な反映箇所が、資料1-2の116ページ上段の下線部の記述を指すという理解でよいのか。

○事務局（岩月係長）

- ・116ページ上段のプロジェクトの説明文でダイバーシティを意識し、さまざまな人の交流を促す内容を明記しているほか、下段の「事業・取組」の欄ではその趣旨に基づく関連事業を掲載している。

○御手洗委員

- ・「みどりを活用したコミュニティ、地域づくりの推進」では、「人の出会い」ではなく「意見や考え方の出会い」を重視してその表現にしているのか。
- ・目次の基本方針4の箇所に「a」が誤って付いている。

○事務局（中川課長）

- ・多様な属性や背景を持つ人々の「意見や考え方の出会い」を重視している。
- ・誤記については修正する。

○奥口委員

- ・ホームページ更新の目標設定について、基本計画の下半期に位置づけるアクションプランの中で個別事業として目標設定するとされているが、アクションプランは、下半期に新たに策定されるものなのか。

○事務局（岩月係長）

- ・中間改定計画の策定後に、下半期のアクションプランを作成し、次回以降の審議会で内容を示す予定である。

○奥口委員

- ・ホームページの更新を1つの個別事業として位置付け、その事業として目標設定するのか。

○事務局（岩月係長）

- ・計画本編で重点的な事業として位置づける取組のうち、どの取組にホームページに関する指標を設定するかは、現在検討中である。例えば、「未来の杜せんだいネット ハナミドリエ」や「SNS等の活用と情報発信の強化」においてSNSのフォロワー数やホームページのアクセス数を目標として設定することを考えている。

○奥口委員

- ・情報発信に関する記述がやや抽象的な印象を受ける。SNSやホームページは単体の事業として扱うのではなく、各政策や事業において情報発信の取組を検討し、アクションプランに反映できると良い。

○渡部委員

・概要版（資料 1-3）に挿入されている図が小さく、見づらいので、市民向けに公開するのであれば、本編の該当ページへ紐付ける記述を挿入するとよい。

○事務局（岩月係長）

・資料 3 は、当初計画の概要版に準じた構成で作成しており、製本する際には、市民が見やすい構成となるよう検討する。

○池邊委員

・計画を市民に示す以上、目標規模に対して実現可能性を担保することが重要であり、みどり分野単独ではなく土木や自然共生サイトなど関係分野の予算も獲得して、計画を実行する必要がある。現在の進捗や残り期間を踏まえ、目標が達成可能なものとして設定されているのか伺いたい。

○事務局（中川課長）

・過去 5 年間の実績や投入してきた予算を踏まえ、実現可能と判断できる水準で目標を設定している。また、自然共生サイトなど他部局と関係する分野については、関係部局の目標とも整合を図りつつ、今後も密に調整・連携しながら進めていく。

○池邊委員

・計画終了時に、目標が概ね達成できたという実感を市民とともに得られると、その後のみどりに対する協力を得られやすいと考える。

○福岡委員

・資料 1-2 234 ページのグリーンインフラの定義について、最新の「グリーンインフラ推進戦略 2030」を踏まえ、単なる取組ではなく社会資本としての位置づけや、ウェルビーイング等の観点の目標も反映させて整合を図るとよい。

・雨水流出抑制策について、公園緑地だけで完結するものではなく、土木・道路・下水道との連携が不可欠であるが、改定計画の指標が公園における浸透能力のみを対象としており、やや控えめな印象を受ける。今後、必要となる連携先や連携内容が示された計画となるとよい。また、雨水流出抑制策について、対策の場所とその効果の及ぶ範囲を今後明確に示せるとよい。

・雨水流出抑制に関する指標の「 m^2/h 」となっているが、「 m^3/h 」の誤りではないか。
・定禅寺通や青葉山など仙台都心部で進められているグリーンインフラ関連の具体的な取組が整理された資料があるとよい。

○事務局（中川課長）

・グリーンインフラの定義については指摘を踏まえ、用語の時点修正を行う。
・流域治水については、庁内で下水道部局を中心に農業・経済・緑など複数部局が連携し、情報共有や整理を行いながら取組を進めている。一方で、本計画における緑分野としての記載は現時点では限定的な内容にとどめているが、今後は下水道部局が整理している戦略とも整合を図りつつ、公園や街路樹などでどのように具体的な対策を展開していくかについて、次期計画における具体化に向け、検討すべき事項であると認識している。

○福岡委員

・下水道の計画で示された豪雨対策や雨水流出抑制の重点エリアと、みどりの基本計画の拠点エリアが重なる部分に着目することで、計画同士の連携が図りやすいと考えるので、今後検討いただきたい。

○佐藤委員

・資料 1-4 の 12 番の意見について、市民団体との連携にとどまらず、環境や公園緑地に関心を持つ個人が主体的に企画・参加できる場が不足している現状を踏まえ、市民一人ひとりの自主的な活動を受け止め、支える仕組みの検討が必要と考えるので検討いただきたい。

・資料 1-4 の 13 番の意見について、多言語など誰にでも分かりやすい情報発信の強化に加え、DX の活用を進めることで、イベント情報の発信や多様な人々の主体的な参加を促進していただきたい。

・資料 1-3（中間改定計画案概要版）は内容が硬く、行政や専門家向けの表現となっているので、デザインを工夫していただくほか、計画の実行にあたり、市民が出来ることが伝わりにくいいため、表現の改善や、別の発信手法について検討いただきたい。ヨーロッパでは、街角のサインの中で、政策の目的や市民に求める協力をわかりやすく示している。ハナミドリエのポータルサイトなどとも連携しながら、市民の理解と参加を促す効果的な PR を行っていただきたい。

・温度分布図は、一般的には都心部ほど気温が高くなる傾向がある中で、仙台では定禅寺通などの街路樹の効果により、都心部の気温が周辺より低くなっていることを示している。これは、みどりが気候変動対策として効果を発揮していることを可視化したものであり、グリーンインフラの有効性を分かりやすく示す貴重なデータである。

この温度分布図は、計画本編に掲載するだけでなく、グリーンインフラの価値を広く発信する資料として積極的に活用していただきたい。また、高温となっている都心部周辺エリアについても、気温低減に向けた緑化などの取組を検討していただきたい。

○事務局（中川課長）

・市民一人ひとりの主体的な活動といった部分への認識が十分でなかったが、現在進めている公園などでの枠組みを活用しながら、個人の意見や参加の機会も取り込めるよう、関係団体と連携しつつ検討を進めていきたい。

・海外の方がボランティア等に参加しやすくするため、英語など多言語による情報発信（チラシやホームページの整備）を進め、東北大学など海外の留学生等も参加しやすい環境づくりについて今後検討していく。

・概要版は現状、市の取組を示す PR としては機能している一方で、「市民が何を求められているか」「自分が何をできるか」が十分に伝わっていない課題がある。そのため、他都市の事例も参考にしながら、デザインや表現を見直し、「市民・市民活動団体・事業者の取組」という形式から一歩進めて、「自分ごととして関われる行動」が伝わるような言い回しに工夫する。あわせて、市民が参加しやすく、より身近に感じられるような分かりやすい表現へ改善し、主体的な関与を促す内容に工夫できればと考えている。

・都心部では緑により温度低減の効果が見られる一方、周辺は依然高温であるため、街路樹の補植や民間緑化の充実などにより、緑のネットワークを広げて温度低減を図っていく考えである。

○佐藤委員

・若者のみどりに対する関心は高い一方で、参加のきっかけとなる機会が足りていないと思われる。より参加しやすい仕組みが必要と考える。

あわせて、みどりの基本計画の基本理念が「ひと」に着目していることを踏まえ、概要版においても、みどりと人が関わる姿が伝わるような内容にしていきたい。

○舟引会長

・計画の中間改定にあたり、委員からの意見を踏まえ検討したものうち、計画に反映できるほどの熟度に至らなかったものについて、資料１－４に取りまとめている。本日も意見を多くいただいたことから、次回資料１－４を追加修正したものについて報告いただきたい。

計画の関係者を増やすことは、計画の実効性を高めるために重要なことであり、丁寧な議論を求めてきたが、計画策定に注力しすぎて計画の実行が滞ることは本末転倒なので、計画本編の議論は、一旦区切りをつけることとしたい。

市民に対してわかりやすいパンフレット（概要版）を作成することが、今後の課題であるが、計画を進めながら検討していただきたい。

本日出た意見を踏まえた最終案の決定については、私に一任いただきたいがよろしいか。

（委員一同了承）

（２）その他

（遠藤委員）

・（仮称）上杉一丁目南緑地整備事業の概要および今後の進め方と、勾当台・定禅寺エリアの整備について、現状の進捗やスケジュール通りかどうか教えていただきたい。

○事務局（佐藤係長：公園管理課企画調整係）

—当日配布資料（仮称）上杉一丁目南緑地整備事業に関する資料にて説明—

・（仮称）上杉一丁目南緑地整備事業は、宮城県庁の北側にある土地を公園として整備する計画である。この土地は、平成３～４年に所有者のご夫婦から「亡くなった後に公園として使ってほしい」という思いで寄付された。奥様が令和５年に亡くなられたことをきっかけに、整備計画が始まった。

敷地には以前、住宅や医院があったが、老朽化のため令和７年に解体している。一方、昭和９年に建てられた石の蔵は残っており、今後活用できるか調査を行う予定である。また、大切に手入れされてきた庭や樹木については、寄付された方の思いを大事にしながら、できるだけ生かした公園づくりを目指していく。

令和６年度に、公園の基本的な方向性を整理し、「庭園を中心に、日本の伝統文化を気軽に楽しめる公園」というテーマを設定した。現在は基本計画の検討を進めている。また、今年４月には敷地内のしだれ桜の開花にあわせて、初めて庭園を一般開放し、これまで中に入れなかった場所を地域の方に見ていただき、アンケートを通して公園整備への理解を深めてもらう取組を行った。この開放をきっかけにマスコミでも紹介され、多くの方の目に触れる機会となっている。今後は引き続き、基本計画の検討を進めていく予定である。

○事務局（渡部課長：公園整備課）

—当日配布資料 勾当台公園・定禅寺エリアの整備に関する資料にて説明—

・勾当台公園と定禅寺通りの再整備は、老朽化した施設の更新と魅力向上を目的に、市役所本庁舎の建て替えと連携しながら、一体的に進めている。

勾当台公園では現在、フェーズ 1（令和 8 年～令和 9 年）として、歩道の拡幅や広場整備、新たなステージの設置などを実施しており、段階的に整備を進めながら、令和 13 年 4 月の完成を予定している。

定禅寺通りについては、車中心の道路から、人が歩いて楽しめる空間へと見直しを行い、車線の見直しにより確保した空間を活用して、歩道の拡幅や自転車レーンの整備、緑道の充実を進めている。令和 8 年度は緑道整備を中心に進めるとともに、東側の緑道についても着手し、令和 9 年度初めの完成を目指している。令和 9 年度は道路舗装を中心とした工事を予定しており、令和 10 年度初めに市役所本庁舎第一期工事の完了にあわせて、一体的に整備が完了する予定である。なお、イベントとの調整を図りながら工事を進めており、全体として遅れはなく順調に進行している。

○遠藤委員

・四ツ谷用水の歴史について、関係者からの意見も踏まえ、（仮称）上杉一丁目南緑地の整備にあわせてプレート設置などにより歴史を発信することも検討してほしい。

また、四ツ谷用水再発見事業は参加希望者が多い一方で、街中での案内表示が不足している現状があるため、工事の機会などを活用して分かりやすい情報発信をすることも検討してほしい。さらに、伊達政宗の大河ドラマ誘致などの観光施策とも連携し、仙台の歴史資源としての活用をより積極的に進めていただきたい。

○佐藤委員

・（仮称）上杉一丁目南緑地の整備について、市民へ周知いただきたい。四ツ谷用水の歴史的価値の発信とあわせて、現在再整備が進められている勾当台公園整備との連携について検討状況を伺いたい。

○事務局（水嶋課長：公園管理課）

・（仮称）上杉一丁目南緑地は、勾当台公園と近接しており、連携は可能と考えている。現在、基本計画を検討している段階であるため、今後の管理運営の検討の中で、周辺公園・緑地との連携を含めて考えたい。

○佐藤委員

・青葉山から青葉山公園、西公園、定禅寺通へと続く緑の連続性は、仙台を特徴づける貴重な資産であり、グリーンインフラとしても高い価値を有している。周辺に点在する歴史的資源とあわせて、仙台ならではの魅力としてブランディングに活用できるポテンシャルも大きい。

こうした価値を最大限に生かすため、エリア全体を俯瞰した視点で計画を検討するとともに、多様な主体と連携しながら、一体的な保全・活用・発信を進めていただきたい。

○池邊委員

・寄付された日本庭園を活かした公園整備について、暫定開放やアンケート実施により多くの市民の関心が示されたことは良いが、飲食施設や芝生広場、遊具などの要望をそのまま反映してしまうと、日本庭園本来の魅力や空間としての調和が損なわれる可能性がある。

そのうえで、この公園は単なる利用ニーズへの対応にとどまらず、日本庭園の技術や水の流れや静けさ、涼感などの価値を活かした特徴的な空間として整備し、環境教育の視点も含めて市民にその良さを伝える意義がある。仙台ではそのような体験機会が十分でないことから、先進的な事例として位置づけることが重要である。

単に市民の意見を取り入れるのではなく、市としての考え方をもって整理・具体化し、寄付者の意向も尊重しながら整備を進めていただきたい。

○事務局（二階堂局長）

・勾当台・定禅寺通エリアについては、これまで策定してきたビジョンの中で、回遊性の向上や多様なコンテンツの活用を意識しながら一体的に整備を進めてきた経緯がある。

（仮称）上杉一丁目南緑地は、当該エリアに新たに加わる拠点であるとともに、これまでになかった歴史的価値を有する空間という特徴も持っているため、単体での整備にとどまらず、エリア全体の中での役割や位置づけを改めて整理することが重要であると認識している。

新たなコンテンツの魅力をどのように活かしていくかについては慎重に検討を行いながら、周辺との連携や回遊性も意識し、エリア全体として市民に魅力的に感じてもらえるような整備を進めていきたい。

○事務局（福與部長：百年の杜推進部）

・みどりの基本計画の中間改定について、今後は本日の意見を踏まえ舟引会長とともに修正を行い、6月頃に取りまとめ、その後、下半期の実施計画となる「百年の杜づくり推進プロジェクト」を、今年度前半を目途に策定する予定である。

また、本計画に反映しきれなかった意見についても、可能な限りこのプロジェクトに盛り込み、完成後に審議会で報告したい。

・ 3. 閉会

○事務局（中川課長）

—閉会—